

SEDIA

セディアCSRアクティブレポート 2020
セディア スマイルブック

SEDIA
SYSTEM

SmileBook

Vol.14

お客さまとメーカーさまの笑顔が生まれる
現場をレポートしました。ぜひ、ご覧ください。



生活インフラを 支える人たち。

セディアグループ

元気で快適な暮らしに不可欠な、かけがえのない仕事。

生活インフラの 最前線へ。



水、ガス、電気、通信、さらには食や住まいなど、
豊かな暮らしに欠かせない社会基盤、それが生活インフラです。
セディアグループのお客さま、そしてメーカーさまは、
その最前線で、生活インフラを支えています。
「スマイルブック」は、そのすばらしい仕事を、笑顔と共にお伝えします。



毎朝、蛇口をひねると水がでる。
陽が落ちれば灯りをともす。
それは決して当たり前じゃない。

私たちの気づかないところで、
当たり前を
支えている人たちがいる。



生活インフラは
ときに傷つくことがある。
途切れることもある。

だけど途切れたら、つなぐ。
途切れないために、
つなぎ続ける。

どんなときも、
生活インフラを
支えている
誇りを胸に
働く人がいる。



生活 インフラと その仕事

街から町へ、
時代から次代へ、
かけがえのないものを
つなぐ仕事。

についてお話をさせてください。

インフラとは、インフラストラクチャー (infrastructure) の略語。下支えるものなどを意味する言葉です。そこに生活という言葉がプラスされると、生活インフラとなり、水道、電気、ガス、通信、住まい、農業、食など、元気で快適な生活を支えるものを指すことになります。「水」「住まい」「農業」を事業領域とするセディアグループが、生活インフラの進化に貢献する理由もそこにあります。

朝、水道の蛇口をひねると水がでてる。夜、スイッチを入れると電気がつく。やすらぎに満ちた住まいがある。食卓には新鮮な食材を使った温かい料理が並ぶ。日本で暮らしていると、それは当たり前の光景かもしれません。しかし震災や台風などで生活インフラが途絶えると様子は

水から始まる生活インフラのイメージ図。
元気で快適な生活を支えています。



一変します。断水は命に影響を及ぼし、停電は社会機能を麻痺させ、作物の不作は暮らしへの打撃となります。水がでることも、電気がつくことも、食材が手に入ることも、実は当たり前のことではなく、私たちの見えないところで、健全な生活インフラのために働いている人々がいるおかげです。そんな生活インフラの進化に取り組む方々こそ、工事店さまや農家さまなどの、セディアグループのお客さまであり、仕入先となるメーカーのみなさまです。そしてセディアグループの社員もその一員です。

元気で快適な暮らしはかけがえのないものです。そのために生活インフラの進化に取り組む人々。泥にまみれ、油にまみれて働く人々。雨の

日も風の日も、暑い日も寒い日も、笑顔で現場へ向かう人々。その笑顔には大切なものを支えているという誇りがあふれています。たいへんだけれど、誇りにあふれる仕事。セディアグループのスマイルブックでは、そんな働く人の姿と誇りを紹介しています。



がんばる。

かけがえのない水、そして電気。
快適な暮らしを支えるために、
雨の日も、風の日も、
街から町へ、確かな仕事で
水の道を、電気の道を
つなぎ続ける人たちがいる。

日本の元気を支える食。
安全で、安心で、そしておいしい
作物を作るために、
今日もグリーンハウスへ向かう人たち。
そのまなざしは、
作物の向こうにある、
未来のしあわせをみつめている。

作る。



造る。

進化する生活インフラ。
そのための製品もまた、
安全、安心はもちろん、快適さを
届けるために、日々、進化を続けている。
確かな技術で、確かな製品を。
その取り組みに終わりはない。



地域や仲間とつながる。

**人のために、
社会のために、
自分のために。**

**セディアグループのまわりには、
進化する生活インフラの
最前線で、全力をつくす
たくさんの笑顔があります。**

街から町へ、住まいやビルへ、水や電気をつなぐ。明日の元気の源となる作物を作る。安全で安心して快適な暮らしのための製品を造る。そして昨日より今日、今日より明日と、少しでもいい仕事を重ねようと切磋琢磨する。セディアグループのまわりにいるお客さま、農家さま、そしてメーカーの方々の日々の仕事の

積み重ねが、生活インフラの進化につながっています。改めて思います。生活インフラへの取り組みは、かけがえのない仕事です。今日もその誇りを胸に現場へ向かう人たちがいます。その仕事の様子、その誇りを笑顔と共にご紹介してまいります。ぜひご覧ください。

水、住まい、農業、生活インフラの最前線へ。

それではご案内しましょう。 進化する生活インフラの最前線へ、 とびきりの笑顔の現場へ。

contents

今回、ご登場いただく
みなさまです。

169	有限会社大皓設備	P18
170	建成ホーム株式会社	P20
171	株式会社とだか建設	P22
172	日野吉工業株式会社	P24
173	株式会社鳴和電気商会	P26
174	貝原水道株式会社	P28

175	小石川植物園	P30
176	株式会社御前崎フルーツファーム	P32
177	ダイキン工業株式会社	P34
178	日立金属株式会社	P36
179	アイカ工業株式会社	P38

SEDIA CSR STORY	P40
-----------------	-----



沖縄時間。

169

有限会社大皓設備
沖縄県豊見城市

脱、



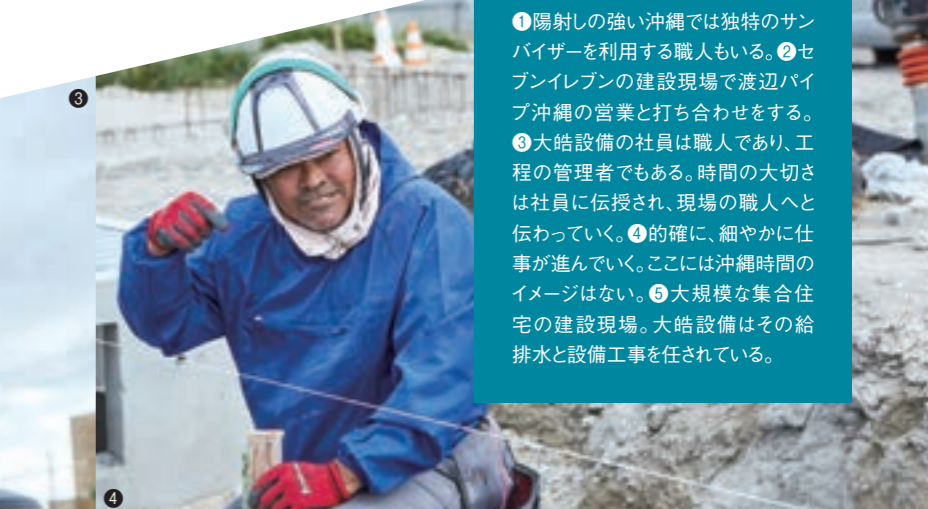
有限会社大皓設備
代表取締役 大城 浩一 さん

沖縄県民待望のコンビニのセブンイレブンが沖縄1号店を出店する際、声をかけていただき、それ以後の出店時も、工事を担当させていただいています。納期を守り、確かな仕事を積み重ねてきたからだと思っています。これからも期待に応える努力を怠らない企業であり続けたいですね。

■事業内容:衛生設備工事、給排水工事、管工事、他

地域性とビジネスの両立こそ、信頼への第一歩。

大皓設備は創業30年。代表取締役の大城浩一さんは配管の下請けの職人からスタートして、会社を起すこと、給排水、設備工事、土木工事も行い、地域に根差した会社に成長させた。「ひとえにお取引さまを始め関係各位のご支援とご鞭撻と、困難な時期を共に頑張ってくれた社員の努力のおかげだと感謝しています。私は高校卒業後、東京で就職しました。正直、沖縄にUターンした時には、違う業界で生きる事も考えました」と大城さんは笑う。初心に戻って考えた時、自信を持って生きていけるのは、都会でみっちり技術を磨いたこの業界と考えた。そして、都会の仕事の進め方や合理的な考え方、その良い所を実践していった。「沖縄には『うちなータイム』という言葉があります。南国のゆったりとした気質からきている言葉ですが、暑さから体を守るための先人の知恵でもあったのでしょうか」と大城さんは言う。しかし今は空調服、ヘルメットインナー、アイスベストなど、様々なグッズも普及している。「忙しいながらも期日は確実に守る。お客さまの一生の財産である建築物に携わる使命感を持つ。社員には、技術者のプライドと責任を持って大切に取組むように伝えます。地域流の働き方はありますが、それにこだわると他からの仕事に応える事は難しくなります」と大城さんは言う。活況な沖縄には本州の企業の現場がどんどん増え、本州の流儀が求められる。それに応えるために、大皓設備の挑戦は続く。



①陽射しの強い沖縄では独特のサンバイザーを利用する職人もいます。②セブンイレブンの建設現場で渡辺パイプ沖縄の営業と打ち合わせをする。③大皓設備の社員は職人であり、工程の管理者でもある。時間の大切さは社員に伝授され、現場の職人へと伝わっていく。④的確に、細やかに仕事が進んでいく。ここには沖縄時間のイメージはない。⑤大規模な集合住宅の建設現場。大皓設備はその給排水と設備工事を任されている。



170

建成ホーム株式会社

北海道登別市



①②海からの冷たい風が吹き抜ける氷点下の屋外の作業。職人が無駄のない動きで仕事を積み重ねていく。
③社訓である「安全、安心、夢、感動」を印字したヘルメットで、毎日、現場へ向かう。④⑤まるで大きなプラモデルを組み立てるように、声をかけあいながら、スピーディーに作業が進んでいく。
⑥現場監督の東さんは入社4年目。協力会社の方に教えてもらいながら現場で仕事を学ぶ。週末の楽しみは、趣味の温泉めぐりという。



建成ホーム株式会社
代表取締役社長 島山 吉晴 さん
安全で、安心で、いつまでも笑顔で暮らせる。それは施主さまですが、社員やスタッフにもいえること。冬の北海道は着工数が減ります。冬場でも社員や職人の仕事を確保してわちあう。北海道ならではの取り組みかもしれませんね。
<http://www.kenseihome.co.jp>

住まいの心。それは性能。

安全、安心、夢、感動。 この順番が住まいの心を育む。

「安全だから安心が生まれる。安全安心だから夢が広がる。夢が実現して感動する。この順番が大切なのです」と笑顔で言うのは、建成ホーム代表取締役社長の島山吉晴さん。いい住まいとは何かを考えて、設計士を経て建成ホームを立ち上げた。そして「家は生きている」という考えで、建物がいつまでも元気な住まいを提唱している。建物が元気であるための大事なことのひとつに結露対策がある。「北海道の住まいは結露との戦いで、これをなんとかしたいと常々考えていたところ、『ウレタン断熱パネル工法』と出会い、これだと思いました」と島山さんは当時を振り返る。「ウレタン断熱パネル工法」とは、フレームの中にウレタンを充填させたパネルを使った造り方で、グラスウールを超える断熱性と気密性があり、内部結露の心配もない。これこそ結露と戦う北国に最良の工法だと島山さんは確信した。「結露による腐食やカビなどが無い健康な家を建てたい。寒さなどで住む人の健康が損なわれることのない、しっかりした断熱材を使った家を建てたい。安全で安心に暮らせる家を1棟でも多く北海道に建てたい。地元の登別に戻り、建成ホームを立ち上げたのはそんな理由からです。家は心です。心とは性格。性格のいい人は素敵で、一緒にいて居心地がいいように、家の心は性能や素材。性能がよく、自然素材でできた住まいは居心地がいい。冬が寒く、長い北海道でも居心地よく快適に過ごせる住まいをこれからも追い続けていきたいです」と島山さんは素敵なお顔をみせてくれた。心のいい住まいは安全で安心で、家族の夢を明日へとつなぐ家に違いない。

電力の 地下道。

I7I

株式会社とだか建設

埼玉県さいたま市



電線の地中化、それは生活インフラの 未来に続いている。

景観、そして街のバリアフリーという観点から電線の地中化工事が進んでいる。道路上にある電柱や電線を地下に収容することで、快適な歩行空間の確保や都市景観の向上を図る。関東地区におけるそのパイオニアが、とだか建設だ。「主要な幹線道路や駅前という繁華な場所での工事なので、確かな技術はもちろん、スピードも求められます」と教えてくれるのは代表取締役社長の富田俊介さん。実績と技術を併せ持つので、とだか建設の仕事は、埼玉県だけでなく、東京都や神奈川県などから広く求められている。「最近では、大きな街づくりの一環として無電柱化も行われています。町並みの美しさはもちろん、防災という観点からも注目を集めています。日本中の電線を地中化するのはまだまだ難しいところがありますが、新しい街づくりから取り組み、安全安心という観点からも電力のインフラは進化するはず。そのためには現状に甘えず、さらに技術の向上とそれを活かすフィールド開拓に挑まなければなりません」。守るために、挑む。どの企業よりもはやく無電柱化工事に取り組み、その技術を磨き続けてきたとだか建設が言う。説得力が増す。その挑戦が生活インフラをますます進化させてくれることだろう。



①仕事の合間にミーティング。コミュニケーションの良さに、とだか建設の仕事の質がうかがえる。②若手社員が現場でいろいろなことを学んでいる。③④現場を監督するには、まずはみずから技術を身につけることが重要。確かな技術こそ、人や企業の将来の財産になる。⑤⑥とだか建設はチーム力を大切にしている。声をかけあい、助け合う光景があらこちらで見受けられた。



株式会社とだか建設
代表取締役社長 富田 俊介 さん

海外からの技能実習生は早くから迎えていました。現在は12名が働いてくれています。教えるというより、いっしょに向上する。技術を身につけて、帰国後は母国で活躍してくれることが夢ですね。

■事業内容:都市土木、無電柱化、電力インフラ、通信インフラ、その他の工事
<http://www.todakakensetu.co.jp>



70年前から、 ONE TEAM。

I72

日野吉工業株式会社
岐阜県岐阜市



日野吉工業株式会社
専務取締役 川島 弘吉 さん

安全で安心な工事を完遂するには、弊社だけでは行えません。さまざまな領域のプロフェッショナルの力が不可欠です。その意味では渡辺パイプさんも弊社の大切なパートナー。共に成果をあげることができるように取り組んでいきたいですね。

■事業内容:給排水衛生設備工事、水道施設工事、土木工事、浄化槽設備工事、他
<http://www.hinoyoshi.co.jp>

①大きな受水槽がクレーンで吊され、設置先まで運ばれる。②受水槽の内部で細かな調整作業を行う職人。③現場を確認しにきた日野吉工業の江崎さん。大きな問題がないことを、江崎さんの笑顔が物語る。④受水槽が寸分の狂いもなく、決まった場所に設置される。⑤取材の日の現場。⑥職人の動きを見守る。指示はない。チームの連携が図れているので間違いはない。見守るだけで十分なのだ。



チーム力こそ、生活インフラの現場に 一番必要なチカラ。

日野吉工業は創業70年を超す、岐阜県を代表する企業。その特長は、創業からずっとチーム力を大切にしていることにあると専務取締役の川島弘吉さんは言う。「私たちが考えるチームとは、同じゴールに向かって共に努力を重ねるプロフェッショナルの集団。共に技を研鑽し、課題解決に知恵を絞り、期待を超える成果をあげる仲間です」。だから日野吉工業はクライアントにも協力会社にも同じ態度で接する。「上ばかりを見ないというのは代々伝わる伝統ですね。技術研修も弊社の社員だけでなく、協力会社さんや渡辺パイプさんにも参加していただいて、最新の技術の共有や習得に努めます。自分だけという発想ではいい仕事はできません」と川島さんは言う。現場に行くとその言葉の意味がよくわかった。受水槽の設置現場。まるで模型を作るようにスムーズに設置されていく。多治見営業所の所長代理の江崎さんは言う。「現場では何も言うことはありません。見守るだけ。施工のプロフェッショナルと、完璧な打ち合わせと確認を行ってきたので問題はめったに発生しないから。プロジェクトの目的と課題、時間とスケジュール、そんな意志の疎通を綿密に行えば、現場に立つまでに仕事の90%は終わったようなものです」と笑う。淡々と、そして確かに仕事が進んでいく。人と人のつながりの強さが、日野吉工業の強みであることがわかる現場だった。

バトンの。 技術の



生活インフラの進化は、 次代への継承があつてこそ。

鳴和電気商会は、屋内の電気工事から始まり、配電線工事、引込線工事、そして外線工事までを行う「総合配電企業」に成長している。その成長の鍵について代表取締役社長の細川加代子さんは「特殊な技術を持つ強みを活かし、多様化するニーズに柔軟に対応しているから」と言う。地域のために貢献し続けるには、この技術の継承が重要と細川さんは考えている。「つまり人です。快適な暮らしのためには電気は必要不可欠。その進化のために工事は、増えることはあっても減ることはありません。大切なのはそれを担える人材の育成なのです」。人がいなければ伝えることはできない。だから若い人を集める、教える、育てる。現場での指導に加え、PDC配電センター（「Power Distribution Center」という自社で運営している研修施設）での技能訓練など、鳴和電気商会はその努力を惜しまない。「テレビCMで、生活インフラとしての電気の重要性を訴えているのもそのためです」と細川さんは言う。たいへんな仕事かもしれない。しかし、やり甲斐は計りしれない。「次代への技術の継承。その飽くなき取り組みこそが、確かな生活インフラの進化につながるのです」と細川さんは笑顔で言った。

①2台の高所作業車を巧みに操り、あっという間に電柱に電線をつなげていく。②つなぎ終えた電柱から次の電柱へ。③暮らしの電気を支えているという自負が、真剣な表情や笑顔からも見て取れる。④片手でハンドルを握り、思いの場所へ高所作業車のバケットを移動させる。⑤先輩の仕事の間近で見ると新人にとっては大切な仕事。⑥先輩社員の話真剣に聞く後輩社員。現場で、その都度、レクチャーが行われている。

株式会社鳴和電気商会
代表取締役社長 細川 加代子 さん



日中だけでなく、災害や停電のときこそ、私たちの出番。電気工事業はたいへんな仕事です。だからこそ「電柱の先に暮らしがある」という言葉のもと、今日の工事が地域の明日を支えるという自負と誇りを持って全社員が働いています。

■事業内容:電気工事業、太陽光発電所の建設・販売、他

<http://naruwa.co.jp>

崩すな。当たり前を

I74

貝原水道株式会社

岡山県倉敷市



① いくつかのお客さまを担当してきたので、仕事と技術の幅には自信があると社員の隠岐さんが答える。②③ 地域で、水道工事といえば貝原水道と言われるくらい、確かな仕事で信頼を得ている。④ 入社4年目の二宮さん。ていねいな仕事を重ねることを心がけているという。⑤ 仕事のよろこびは?と聞くと、「水がでる。家が完成する。その瞬間がいちばんのよろこび」と社員の中務さんは笑顔で言う。



つながるとは、
小さな信頼を積み重ねること。

貝原水道は創業から半世紀以上、お客さまや地域とのつながりを大切に日々の仕事に取り組んでいる。「つながるということは信頼を積み重ねること。目先の利益よりその先の信頼を大切にしています」と笑顔で言うのは代表取締役の貝原伸司さん。そのための取り組みは会社全体で徹底している。当たり前のことではあるが、ていねいな仕事ぶりもそのひとつ。配管は見えない部分の工事だからこそ手を抜かない。「家は一生でいちばん高い買い物。施工した配管は壁の中や床下に隠れて見えませんが、見えないからこそ不具合を見つけにくい所。だからこそ品質の高い施工をしなければいけません」と貝原さんは言う。また、創業から続く緊急工事部門の存在もそのひとつ。地域の水まわりのトラブル解消のために専任担当者と職人を置いているのだ。「トラブルはいつ起こるかわかりませんが、発生したらお客さまにとっては一大事。可能な限り即日対応したいと思うからです。それは会社経営という戦略的な要素もありますが、生活インフラの仕事に従事する者としての使命感と誇りですね」と貝原さんは理由を教えてくれる。「水やお湯がでる、料理を作る、お風呂に入る、トイレを使うなど、普通に使えることが当たり前ののですが、この当たり前が崩れたとき、そこで暮らす人は大変困ります。それらの生活インフラを作り、守り、リノベーションするのが私たちの仕事。プロフェッショナルとしての責任感・自負心・誇り、そしてお客さまへの思いが、信頼を積み重ねる仕事の原動力となっています」と貝原さんは笑顔で言った。



貝原水道株式会社
代表取締役 貝原 伸司 さん

弊社では、職人でも配置換えを行います。いろいろなお客さまの仕事をするためには、いろいろな技術を身につける必要があるからです。このサイクルが職人の技量を高め、幅を広げます。習得した技術は一生の財産です。技術は錆びません。

■事業内容:上・下水道工事、給湯設備工事、衛生設備工事、空調設備工事、他
<http://www.kaihara.com>





日本最古で 最新の 研究植物園。

175

東京大学大学院
理学系研究科附属植物園
小石川植物園
東京都文京区



東京大学大学院理学系研究科
生物科学専攻教授 塚谷 裕一さん

2019年に念願の温室の建て替えを行い、渡辺パイプさんにお世話になりました。それまで手狭だったので研究にも観賞にも不便なところがありました。今回は広々とした空間になったので研究にも拍車がかかります。

<https://www.bg.s.u-tokyo.ac.jp/koi-shikawa/>

①所員の小牧義輝さんが植物の生育を見てまわる。②2019年に立て替えられた温室の外観。③小石川植物園では明治時代初期から小笠原植物の調査研究が行われており、固有植物が収集されている。④⑤野生植物の生育条件はひとつひとつ異なり、栽培方法が確立していないので、維持管理には技術だけではなく経験と努力が必要という。⑥四季を通じて、植物の手入れには余念がない。⑦春には桜、秋には紅葉を目当てにたくさんの人が訪れる。



研究植物園でもあり、
広く開かれた植物の博物館でもある。

東京大学大学院理学系研究科附属植物園である「小石川植物園」。日本で最も古く、世界でも有数の歴史を持つ植物園だ。161,588㎡(48,880坪)という敷地には、台地、傾斜地、泉水地などの地形を利用して、国内外の植物園から種子や子苗によって入手した植物約2,000種が栽培されている。「植物の再生能力の研究をはじめ、植物と動物や昆虫との共生関係の発見やメカニズムの研究を行っています。また、この施設は研究機関としてだけでなく、広く公開された博物館の役割も担っています」と教えてくれるのは東京大学大学院理学系研究科・生物科学専攻の塚谷裕一教授。小石川植物園の園長でもある。多様性の研究の鍵を握るとされる植物の多くが熱帯・亜熱帯地域に集中しているが、その地域は自然破壊の危機に瀕しているホットスポットでもある。その意味でも、数少ない調査の機会に収集した植物をいつでも研究に使用できる状態で蓄積する研究植物園は、きわめて重要な施設と塚谷教授は教えてくれる。2019年、温室が建て替えられた。光がたっぷりとする室内には、ゆったりと植物がレイアウトされている。「植物のレイアウトやわかりやすい解説など、よりよく理解できる植物園として創意工夫を努めています。一人でも多くの方にお越しいただきたいです」と塚谷教授は笑顔で言った。都心にある植物園。四季折々の植物と出合いに訪れたい場所だ。

原点。

地域ブランドの



イチゴしかできない土地から、 この土地だからこそそのイチゴへ。

あきひめ、紅ほっぺ、かなみひめ、かおり野など、御前崎フルーツファームではいろいろなイチゴを栽培している。「海に近いこの土地は砂地なので、栽培できる作物は限られます。60年前からイチゴ一筋でやってきました」と教えてくれるのは、御前崎フルーツファームの代表取締役の松本正幸さん。父親が始めて松本さんは2代目。その60年間に周辺でイチゴを栽培する農家が増えていった。雨が少なく、日照時間が長い御前崎の気候は、実はイチゴの栽培に最適だったのだ。「御前崎イチゴは、ひとつのブランドに成長しつつあります。うれしいですね」と松本さんは笑顔を見せる。毎年、6月から9月に苗を育て、収穫は10月から翌年の5月にかけて。その間はイチゴ狩り園も開設している。御前崎フルーツファームの特長のひとつは、近隣や地域の方を多く雇用していること。取材の日もイチゴの手入れや収穫したイチゴの箱詰め作業など、地元の人が働いていた。「地元の人といっしょに育てて、働いていただくことで利益も還元する。そんなつながりがあるからこそ、地域のブランド品になると考えています。御前崎イチゴはこの土地とこの地域の人で育てていくのです」と松本さん。イチゴしかできなかった土地だけど、地域のつながりによって、この土地だからこそそのイチゴを育む。地域ブランドの原点がここにあるのかもしれない。



株式会社御前崎フルーツファーム
代表取締役 松本 正幸 さん

イチゴは直接、地元の百貨店へ届けています。収穫してパッケージしたイチゴが翌日には店頭に並びます。鮮度の高いイチゴを味わっていただけるのがうれしいですね。

<http://omaezaki-fruit-farm.com>

①栽培システムが管理してくれるのでとても楽になりましたと言いつつ、イチゴの手入れをする姿は愛情たっぷりだ。②見るだけで味の違いがわかるのか。こちらの方が甘いよ。味見をさせていざと、松本さんの言う通りだった。③④イチゴの手入れをするのも、バックに詰めるのも、地元の方。御前崎フルーツファームは近隣の人のつながりを大切にしている。⑤⑦日照時間が長い土地だけに紫外線には要注意。暑いけれど日焼け対策は万全で挑む。⑥御前崎フルーツファームのグリーンハウスは17棟。栽培面積は7,000坪にもなる。

I77

ダイキン工業株式会社

①最新の生産技術とIoTの導入によって業務用エアコンの品質と生産性を高めている。②「工場内の空気にも気が配られているから動きやすい」と笑顔で答える社員。③④短いリードタイムで多品種小ロット生産を実現するには人の技術が不可欠という。④職人の技が必要な所は、人がきっちりと造り込んでいく。⑤生産ラインの脇にある「工場IoTプロジェクトセンター」。工場内のさまざまなデータをリアルタイムで見える化している。



世界をリードする IoTの回答が、ここにある。

ダイキン工業堺製作所の臨海工場は、2018年に稼働した。以来、国内外からの視察が後を絶たない。IoTと人の理想的な関係が製品の品質に結びついているからだ。「この工場では、異なる仕様の製品を1本の生産ラインで組み立てています。一番の特長はIoTを積極的に導入することで個別受注品の大量生産を実現している点です」と教えてくれるのは、生産技術部主任技師の飯田純也さん。個別受注品の大量生産(マスカスタマイズ生産)を可能にしているのがパレットに内蔵したIDカードと、ラインに取り付けられたセンサーやカメラだという。「IDカードは工程毎に的確な作業指示をだします。また、センサーやカメラの情報は「工場IoTプロジェクトセンター」に集約して一元管理。現状の把握とこれからの改善に役立てます」と飯田さんは言う。そしてもうひとつが生産設備のモジュール化だ。「工程ごとに生産設備をモジュール化して、ブロックを組み立てるようにそれぞれの生産設備をつなぎ合わせて生産ラインを作るのです。柔軟に構成できるので、生産量に応じたライン編成が行えます」と飯田さんは教えてくれる。ここで注目したいのは、ダイキン工業のIoT化はすべて人を基準にしている点だ。小ロット生産を行うのはお客様のニーズに応えるため。工場のIoT化も働く人の負担を減らして生産性を高めるためということ。最後に飯田さんは笑顔でこう言った。「大切なのは、機械にできることと、人にしかできないことを情報で結ぶこと。将来はIoTを駆使して、受注したその日の生産・出荷をめざします」。人と機械の役割を明確にして情報でつなぐと、最短で最高の結果を生む。IoTの回答のひとつがここにはある。



ダイキン工業株式会社 堺製作所
空調生産本部 生産技術部
主任技師 飯田 純也 さん

細かい作業は人が担う。重いものは機械が担う。人と機械の役割を見極めて、機能の共存をはかり、リードタイムを短くする努力を重ねる。そのための武器が情報の一元管理。モノ造りはまだまだ進化します。

■事業内容:空調・冷凍機、化学、油機、特機、電子システムの製造・生産、他
<https://www.daikin.co.jp>

IoTへの回答。

掌の

**職人の技と勘を数値化する。
品質の安定と継承のために。**

「鉄管継手は100年前と形が変わらない希有な製品ですが、製造の現場はどんどん進化しています」と教えてくれるのは、日立金属桑名工場長の頓所政次さん。桑名工場では品質を高めることはもちろん、品質を次の世代へつなげていくための、改善という名の進化を遂げている。継手の質を大きく左右するものとして、頓所さんは「溶湯(地金を溶かした素材)」と「砂」をあげた。「鑄型に流し込む溶湯の成分(主にコークスの分量)と温度を安定させなければ流し込みが悪くなります。もうひとつは型を作る鑄物砂です。砂が悪いと固まらずに割れたり、ガスの抜けが悪くなるので、砂の粒度や樹脂の配合をいかに安定させるかが重要です。かつては職人の経験と勘にたよる世界でした。しかし今は違います。弊社では数値化の取り組みを進めています」と頓所さんは言う。工場のラインに「握り場」がある。金型へ入る前の砂を職人が握って状態を確認する場だ。「昔は職人の手の感触で判断していました。いまは砂の状態を数値化して表示しています。握った砂の状態を数値で把握できるのです。品質の安定のためだけでなく、若い人が習得しやすくすることも目的です」と頓所さんは言う。たかが砂というなかれ。夏場と冬場では、同じ砂でも最適な湿度は微妙に異なるという。「鑄物継手の製造は、砂を征する物が品質を征するからです」と頓所さんは言う。その進化の取り組みは終わることを知らない。



①砂の握り場の横にはその砂のデータが表示されていて、手から感じる砂の状態を数値で確認して覚えていく。②溶湯の成分の調整風景。15分に1回の割合で成分を確認する。③TPMの実施により、工場の技術と生産性は年々進化している。④日立金属には、砂の状態を検査する専門職の検査士がいる。⑤より強く、より滑らかに、より美しい製品を造るのが誇りと社員は笑顔で言う。

砂の数値。

日立金属株式会社
桑名工場長 頓所 政次 さん

弊社がTPM(Total Productive Maintenance 生産効率を高めるための全社生産革新活動)に取り組んだのが30年前。月に一度は設備を止めて、整理整頓はもちろん、情報の共有や技術の伝承、さらに安全への取り組みも加え、この活動を軸に品質の向上を図っています。

■事業内容:金属材料、機能部材の製造と販売

<https://www.hitachi-metals.co.jp>





石と木の 流儀。

I79

アイカ工業株式会社
(アイカインテリア工業株式会社)



① アイカインテリア工業では海外からの技能実習生を積極的に受け入れている。② 人造石の加工工場。③ 妥協を知らない造り込み。ミリ単位の調整が重ねられていく。④ 木枠の加工工場。アイカ工業の木に関する加工技術が活躍している。⑤ 人造石の切断風景。⑥ 徹底した造り込みと高い技術力が自分たちの誇りと社員は笑顔で言う。

人造石という素材を製品にするのは、木の技術だった。

人造石製品が人気だ。天然の風合いはそのままに、自然石の欠点を克服し、水晶がもつ独自の手触り、質感、光沢が高級キッチンや洗面化粧台の素材として求められている。そのパイオニアがアイカ工業であり、その加工を担うのがアイカインテリア工業だ。茨城工場は、人造石の生産ライン強化のために2019年に稼働した。「主に関東を中心としたメーカーからの受注生産を行っています。製品は人造石の他にセラミックもあります。多品種小ロット生産で、1日100台弱の生産が可能。品質には高い評価をいただいています」とアイカインテリア工業代表取締役社長の太田泰生さんは言い、「私たちの人造石製品の品質を支えている裏には木の技術があるんです」と付け加えた。人造石といえば石の加工にばかり注目されがちだけれど、製品化するには裏面に木枠が必要になる。それがなければキッチンや洗面化粧台に加工することはできない。「アイカ工業には化粧板や建具など、木に関する製造技術が蓄積されています。その技がこの工場にも傳承されていて、人造石をきれいに加工することはもちろん、裏面の木枠の工程にも質を求めるところに私たちの製品の特長があるのです」と太田さんは笑顔で言う。人造石の加工だけでは素材でしかない。木の技を施すことで、素材は施工性に優れた製品になる。素材から製品へ、進化させる技がここにはある。



アイカインテリア工業株式会社
代表取締役社長
太田 泰生 さん

人造石加工も、木枠加工も、ミリ単位で造り込むのが私たちの誇り。課題は生産量です。国籍、年齢を問わず、志のある人ならば短時間で技術を習得できる研修や制度を整えています。

■事業内容:メラミン化粧板加工カウンター製造、フィオレストーン加工、他

アイカ工業株式会社
<http://www.aica.co.jp>

アイカインテリア工業株式会社
<https://www.aica-interior.co.jp>

すべての お客さまに もっと笑顔を。

そのための取り組みこそ、
セディアグループのCSR活動です。

もっとお客さまに笑顔届けたい。
もっと笑顔があふれる未来にしたい。
笑顔は、答えです。
いつも笑顔があふれる方向をめざしていると
間違いはないからです。
セディアグループが「スマイル」という言葉を
大切にしている理由も、生活インフラの現在を
笑顔で伝えようとする想いもそこにあります。
もっといい未来へ。もっと笑顔の明日へ。
その取り組みこそが、
セディアグループのCSR活動です。

私たちの SEDIA 2030 宣言

生活インフラを
つなぐ「パイプ役」に。

お客さまの、社員の、そして社会の未来のために。
セディアグループは「私たちの2030宣言」に取り組んでいます。



どんな時も
つなぎ続ける。
その誇りを胸に、
今日も。



生活インフラを、 つなぐ。

万が一、生活インフラが途切れたら、つなぐ。
どんな時もつなぎ続ける。そのための取り組みを強化しています。



お客さまと。災害時の工事支援。
緊急時の全国災害支援
体制を構築。

大災害のときに迅速な復旧工事に取り
かかることができるように、セディアグル
ープは全国管工事業協同組合連合会と
「災害時における復旧活動の応援協力
に係わる覚書」を締結。ライフライン復旧
のための資材供給を円滑に行うことを目
的とした協力体制を築いています。



メーカーさまと。災害時の工事支援。
緊急時の資材供給
システムを構築。

セディアグループは水道メーカー6社と
緊急時の資材供給体制を整えています。
それが「ライフライン・ネット」。大災害
が発生するとセディアグループからメー
カーへ復旧資材の確保と配送を連絡。全
国管工事業協同組合連合会と協力しな
がら、資材をセディアグループが現場へ
配送する体制を整えています。



経験を動画にまとめて社員と共有。
災害の経験と教訓を
未来へ活かす。

昨年の台風で、福島をはじめ、セディア
グループのサービスセンターも大きな被害
を受けました。災害時、現場で必要なこ
とは何か、その経験を今後、どのように活
かしていけばいいのか?たとえば東日本大
震災で被災した時の経験を動画にして
配信するなど、大災害のときの心構えと
行動を再確認しています。

そして人と地域の成長を願って。

地域のためにできること、人の成長のためにできることを考えて実践する。セディアグループの大切な取り組みです。

北海道から九州・沖縄まで。全国の皆さまへ。



各種研修と自己啓発活動。技能向上の研修や自己啓発活動も支援しています。

新入社員研修、新任所長研修など充実した研修制度の他にも、空調営業技術研修など、エンジニアリング力を高める研修も開催。また、社員の自己啓発活動も積極的に応援。学習する風土づくりに継続的に取り組んでいる企業を表彰する「JMAM通信教育優秀企業賞」も受賞しています。



子どもの未来のために。体験学習の機会を通して、生活インフラの大切さを伝えています。

生活インフラを支える仕事はどのようなものなのか？全国のサービスセンターで中学生の職場体験学習を受け入れています。1日の仕事の内容や、水や水道の仕組み、生活インフラの大切さを学ぶ機会を提供しています。



スポーツ支援。地域貢献の一環として、オルカ鴨川FCなどサッカークラブを応援。

地域のスポーツ振興を通して、地域の人々の健康な暮らしを応援したい。セディアグループではそんな想いから、千葉県鴨川市に拠点を置く「オルカ鴨川FC」や、地域のサッカークラブを応援しています。

子どもや社員の成長のための取り組みを、もっと！

TEAM SEDIAのチカラで、お客さまへ。

全国の5,000名を超える社員と500カ所を超えるサービスセンターをつなぐチームのチカラで、お客さまへ笑顔をお届けします。



お客さまの工事を支援するために。全国500カ所を超えるサービスセンターでお客さまをサポートします。

セディアグループのサービスセンターは全国に500カ所以上。「水工」「設備」「住設」「電工」「土木」とわかれていますが、どのサービスセンターでも、住まいに関する商材をワンストップでお届けできる体制を整備しています。そのネットワークもお客さまの工事を支援するために生まれたものです。



タイムリーな配送のために。3,000台を超えるトラックで迅速な配送を実現しています。

納期こそ、ビジネスの基本。必要な時に、必要な商品に、必要な場所に届けることがセディアグループの基本。そのため商品と配送のシステムを日々磨いています。今日もセディアグループの配送者は、3,000台を超えるトラックでお客さまのもとへ商品をお届けに向かっています。



チーム力をさらに強化。記録に挑むアスリート社員の応援を通してチーム力を強化しています。

2018年に創設された渡辺パイプ陸上部。川崎和也選手(十種競技)と竹内爽香選手(短距離)、中山昂平選手(三段跳)に加え、北川翔選手(短距離)が入社。記録へ挑む姿を全社一丸となって応援することで、セディアグループのチーム力の向上とコミュニケーションの活性化をはかっています。





笑顔と共に。 未来へ。

未来へ、
笑顔の取り組みは、
まだまだ続きます。



社名 渡辺パイプ株式会社
 本社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
 浜離宮パークサイドプレイス6階
 創業 1953年12月8日
 代表者 代表取締役社長 渡辺 元
 資本金 100億9,918万4,000円
 年商 3,069億円(グループ売上:2020年3月期予定)
 従業員数 5,350名(グループ全体:2020年4月1日)
 業務内容 【管工機材の販売】
 水道機材、衛生器具、給排水金具、配管材料、他
 【住宅設備機器の販売】
 空調機器、浄化槽、厨房機器、給湯機器、建材、他
 【電設資材の販売】
 電気工事材料、電線、照明器具、他
 【温室の設計・施工、販売】
 各種温室の設計・施工、各種グリーンハウス及び部品・資材、
 各種被覆資材、灌水装置、自動カーテン装置、天窓・側窓開閉装置、
 冷暖房装置、温室環境制御装置、養液栽培システム、他

グループ会社

渡辺パイプ沖縄株式会社	株式会社セディアトランスポート
株式会社ツギテの三共	株式会社エドビ
三興電材株式会社	協伸株式会社
キザイ産業株式会社	西日本グリーン販売株式会社
梅津管材株式会社	みかど化工株式会社
ヤナギ管材株式会社	Watanabe Pipe Vietnam Co.,Ltd. (WPVN)
昭栄商事株式会社	江蘇米可多農膜發展有限公司
明興電機株式会社	げんきビジネスサポート株式会社
千成産業株式会社	株式会社セディアピーエス
株式会社大成商会	株式会社アサマリゾート
大野バルブ産業株式会社	NPO法人浅間山麓国際自然学校
平和テクノ株式会社	公益財団法人セディア財団
クサノ電材株式会社	
台湾渡邊建材股份有限公司	
株式会社WATER WORKS	
株式会社ワークサポート	
パイプシステム工業株式会社	

本レポートについてのお問い合わせは、経営企画室 広報・社長室グループまで。 TEL:03-3549-3076 FAX:03-5565-6374

水から未来を考える。自然の学びを未来へ活かす。 セディア財団はスマイルプロジェクトを応援しています。

セディア財団全国小学生かべ新聞コンテスト

「わたしたちのくらしと水」をテーマに、全国の小学生を対象にした、かべ新聞コンテストを開催しています。回を重ねるごとに応募数も増え、第5回のコンテストでは、全国から4,613作品（応募校数：188校）ものご応募をいただきました。



高校生が描く明日の農業コンテスト

全国の農業高校に通う生徒を対象に、「わたしはこんな方法で農業を元気にする」というテーマでレポートを募集するコンテスト。第3回は206作品（応募校数：37校）ものご応募をいただき、セディア財団賞受賞者にはオランダ研修旅行が進呈されました。



私たちは、暮らしに寄り添う企業として、お客さまやお取引先さま、地域の方々の笑顔を想い、さまざまな商品やサービス、ソリューションをお届けしています。「水」「住まい」「農業」の明日を描く、すべては皆さまの暮らしと笑顔のために。

これまで、そしてこれからも。
セディアグループは持続可能な未来への取り組みを進めます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



人と、地域と、社会と、自然との共生を第一に、しあわせを明日へつなぐ取り組みを、セディアグループの水と住まいと農業の事業領域を中心に行っています。

水・住まい・農業の明日へ。そこにセディアシステム 渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス6階
TEL.03-3549-3111 FAX.03-5565-6374
<https://www.sedia-system.co.jp>